

プレスリリース  
令和元年 12 月 9 日

報道関係 各位

全国農業協同組合中央会  
( J A 全 中 )

**第 44 回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール  
内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞・農林水産大臣賞ほか各賞が決定  
～令和 2 年 1 月 11 日（土）14 時～15 時 表彰式を大手町・JAビルで開催～**

小・中学生を対象に、毎日のごはんでおいしかった思い出や、家族とのコミュニケーションなど「ごはん・お米」にまつわる作文・図画を募集し、優れた作品を賞する「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの内閣総理大臣賞をはじめ各賞が決定しました。

今回の内閣総理大臣賞は、作文は海外旅行で初めて知った海外の稲作の姿と、日本の稲作との違いについて気づきや探究心を自分の言葉で表現し、図画では、おむすびをほおぼりながら勉強を頑張っている姿が、いずれもすがすがしく、力強い作品となっています。

今回の応募点数は作文部門 50,660 点、図画部門 60,767 点でした。各都府県での審査を経て、11 月 19 日（火）および 20 日（水）に東京・大手町の JAビルで全国審査会（審査会委員長＝中村靖彦氏（東京農業大学客員教授））を開催しました。審査の結果、内閣総理大臣賞（2 名）、文部科学大臣賞（6 名）、農林水産大臣賞（6 名）、全国農業協同組合中央会会長賞（6 名）ほか決定しました。

昭和 51 年から開催し、今年で 44 回目を迎える本コンクールは、JAグループが推進する「みんなのよい食プロジェクト」の一環として実施しています。これからの食・農・地域を担う子どもたちに、ごはん・お米はもとより、国土を豊かに作り上げてきた稲作をはじめとする農業についての学びを深めてもらい、また、優れた作品を顕彰することを通じて、ごはん・お米の重要性を広く周知することを目的としています。

表彰式は、令和 2 年 1 月 11 日（土）14 時～15 時に、大手町カンファレンスセンター（東京・大手町の JAビル）にて開催します。是非ともご取材いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。取材に当たっては別紙をご参照ください。

<添付資料>

・受賞作品ご紹介 ・コンクール概要 ・表彰式ご取材申込書

**この件に関するお問い合わせ先**

※作品内容の照会、データについて

作文・図画コンクール全国事務局 担当：隅内、<sup>すみうち</sup>松津

TEL：03-6281-5811 FAX：03-6281-5853 携帯：080-5943-5896 e-mail：[sakuzuga@agrinews.co.jp](mailto:sakuzuga@agrinews.co.jp)

※取材対応について

作文・図画コンクール広報事務局（株メディコ 内） 担当：松本

直通（携帯）：090-6111-9766 TEL：03-3457-7571 e-mail：[matsumoto@medico-pr.co.jp](mailto:matsumoto@medico-pr.co.jp)

※主催団体について

全国農業協同組合中央会 広報部広報課 担当：林

TEL：03-6665-6011 FAX：03-3217-5072 e-mail：[t-kouho.s@zenchu-ja.or.jp](mailto:t-kouho.s@zenchu-ja.or.jp)



### 内閣総理大臣賞

部門	部	都道府県	学校名	学年	受賞者氏名	作品名
作文	第2部	香川県	高松市立栗林小学校	6年	長町 そよか	広がれ！お米の可能性
	講評	家族旅行でベトナムへ行って初めて知った食や稲作の事実。その発見や驚きにとどまらず、日本の稲作や食文化との相違点や共通点の気づき。帰国後、米料理について調べ、その可能性を自分の言葉で表現する、主体的な学びや探究心も高学年として素晴らしい。学びの深まりが伝わってくる作品構成の仕方も見事。				
図画	第3部	静岡県	長泉町立北中学校	3年	清和 羽音	おむすびは勉強のおとも
	講評	ひとり、机に向かってペンを執っている姿。まことにすがすがしく、清らかな印象である。おともは、おむすび。誰かが握ってくれたのだろうか。幸せいっぱい食事の情景が描かれていて、この作品を見る人の心に訴える力にあふれている。選考に当たって、審査員全員が推した会心の作。まことに心地良い。				

### 文部科学大臣賞

部門	部	都道府県	学校名	学年	受賞者氏名	作品名
作文	第1部	山形県	米沢市立北部小学校	3年	青木 舞桂	日本のこころ「おそまつさま」
	講評	日常生活の中で祖母とかわす「ごちそうさま」「おそまつさま」は、日本文化の中で古くから培われたものである。言葉について調べ、意味を理解し、会話の中で使っていく「学び」も評価できる。「食器は気持ちよさそうに」「さわやかなそよ風が」などの表現も、感性の豊かさを感じる。				
	第2部	茨城県	小美玉市立羽鳥小学校	6年	山口 哲平	受けつがれる祖父の味
	講評	他界した祖父への尊敬の気持ち、悲しみから一歩進もうとする祖母の心の動き、稲作を継承する決意をしたおじや支援してくれる周囲の人々のことなど、今、日本の稲作が抱える課題を自分の視点で捉え、素直な言葉で表現している。祖父の稲作に対する熱い思いも、作品を通してうかがえる。				
	第3部	福井県	福井市足羽中学校	3年	辻 紗季	火祭りの塩むすびと私の夢
講評	塩むすびや知恵鍋を準備し、伝統行事の「火祭り」を支える地元の人々の絆や温かさ、祭りの場の空気感が作品の前半部分から感じ取れる。効率化なのだろうか、塩むすびから変化していくことへの率直な気持ちの表現もよい。なぜ「塩むすび」を復活させたいかという思いが、後半部分から熱く伝わってくる。単なる行事ではないことが作品全体から伝わる力作。					
図画	第1部	大阪府	堺市立野田小学校	3年	今鹿倉 由羽	かまどのごはんっておいしい！！
	講評	火吹竹を使って加熱をうながす仕草がこの上なく楽しいひとときを表していて、心打たれる作品。この後に描かれるであろう家族との食事の情景が想像される見事な一点である。今後の成長が楽しみ。				
	第2部	大阪府	堺市立東百舌鳥小学校	5年	菊永 優介	じいちゃん退院おめでとう
	講評	退院したおじいちゃんの帰宅を喜ぶ夕食の情景、孫が自分のことのように嬉しさを表しているのも見事な描写である。抑えめの色彩のトーンにも好感の持てる、すばらしい作品である。今後の成長に期待が持てる。				
	第3部	宮城県	涌谷町立涌谷中学校	2年	皆川 泉	地域文化学習「麓岳白山豊年踊り」
講評	スケッチの力量もさることながら、平面の作品でも表現できる立体感、質感に、驚き入る。舞台上の人物の動き、バランス等々、どれをとっても見事な描写力。好感の持てる表現力を讃えたい。					



## 農林水産大臣賞

部門	部	都道府県	学校名	学年	受賞者氏名	作品名
作文	第1部	埼玉県	さいたま市立大谷場小学校	3年	桂木 花音	さい後のおにぎり
	講評	アメリカでの生活体験を元に、友だちへの思いや、米に対する自分の考えが素直に表現された作品。「おにぎりが友だちを運んでくれたのだ。」の一文も光る。グローバル化の中で、互いに心を開いていくツールの一つとして、互いの食文化の理解があることを、実体験を通して伝えている。				
	第2部	山形県	庄内町立余目第三小学校	6年	園部 杏莉	庄内米は最高のお土産
	講評	お米をお土産にすることについて抵抗があった筆者が、東京のおじさんたちの言葉にふと立ち止まり、東京の魅力と比較しながら故郷の素晴らしさに気づいていく様子が、見事に表現されている。「鳥海山に種まきじいさんが(略)」など、その地方の言い伝えも日常の中で継承されているところが微笑ましい。				
	第3部	神奈川県	厚木市立相川中学校	1年	大貫 桜和	父が選んだ道
	講評	会社勤務を辞めて、農業を継承する父親の決断に対する筆者の複雑な気持ち、学びながら作った米を家族で食する喜び、試行錯誤しながら農業に従事する父親の姿などを、子どもの視点で素直に表現している。懸命な父を尊敬している気持ちが、作品全体から伝わってくる。				
図画	第1部	佐賀県	小城市立桜岡小学校	2年	川原*田 すみれ	なえがいっぱいのもよ
	講評	今年の秋の豊作へと動き出した田植えの作業。後ろに積まれた苗の束の色合いにも期待感があふれていて、まことに好ましい作品である。今後の大いなる成長が期待される。				
	第2部	島根県	松江市立乃木小学校	6年	石松 祐	田植え
	講評	躍動的な田植えの情景。秋の豊作を期待しての活発な動きを描き表していて、とても好感の持てる作品。ことに、人間の描き方に才能の高さを感じさせて、今後の高い成長が大いに期待される。				
	第3部	佐賀県	伊万里市立国見中学校	2年	荒木 音羽	力を合わせて
	講評	全体の見事な、特に遠景の表現の充実ぶりに、この作品を描いた生徒の将来が大いに期待される。叙事詩か、あるいは文芸作品としても見事な出来栄を讃えたい。				

※「原」はがんだれ(厂)に日に小

## 全国農業協同組合中央会会長賞

部門	部	都道府県	学校名	学年	受賞者氏名	作品名
作文	第1部	沖縄県	石垣市立登野城小学校	3年	小濱 啓太	石垣島のお米作り
	第2部	長崎県	壱岐市立霞翠小学校	4年	野元 理彩	妹のもちふみ
	第3部	栃木県	宇都宮短期大学附属中学校	1年	麦倉 惟月	じいちゃん自慢の米
図画	第1部	香川県	高松市立古高松小学校	2年	右近 敏明	いもうとと いねかり
	第2部	佐賀県	佐賀市立鍋島小学校	5年	白浜 早也花	おいしいお米にな〜れ!
	第3部	広島県	広島市立井口台中学校	1年	榊本 陸斗	伝統を守る人々の豊作への祈り



## ■コンクール概要

○応募資格	小学校および中学校に在籍する児童・生徒。特別支援学校の小学部、中学部に在籍する児童・生徒。
○課題 (作文・図画 両部門共通)	毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食に関する思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現してもらおう。
○審査員	審査会委員長 中村 靖彦氏 (東京農業大学客員教授) 作文部門 設楽 敬一氏 ((公社)全国学校図書館協議会理事長) 竹村 和子氏 ((公社)全国学校図書館協議会常務理事・事務局長) 堀米 薫氏 (児童文学作家、(一社)日本児童文芸家協会理事) 真鍋 和子氏 (児童文学作家、(一社)日本児童文学者協会監事) 図画部門 岡村 泰成氏 (美術家集団「Moss Spirits」代表、日本美術家連盟会員) 小柳津須看枝氏 (日本美術家連盟会員) 中馬 誠二氏 (渋谷区文化芸術振興推進協議会委員) 西巻 茅子氏 (絵本作家)
○賞及び賞品	(1) 内閣総理大臣賞 (作文・図画部門各1名：計2名) 賞状と副賞 (記念盾及びお米券、記念メダル) (2) 文部科学大臣賞 (各部門各部門ごとに1名：計6名) 賞状と副賞 (お米券及び記念メダル) (3) 農林水産大臣賞 (各部門各部門ごとに1名：計6名) 賞状と副賞 (お米券及び記念メダル) (4) 全国農業協同組合中央会会長賞 (各部門各部門ごとに1名：計6名) 賞状と副賞 (お米券及び記念メダル) (5) 優秀賞 (各部門各部門ごとに15名：計90名) 賞状と副賞 (記念メダル) (6) 学校奨励賞 (内閣総理大臣・文部科学大臣・農林水産大臣各賞受賞者所属校：計14校)
○主催	農業協同組合、都道府県農業協同組合中央会、全国農業協同組合中央会
○後援	内閣府、文部科学省、農林水産省、全国都道府県教育委員会連合会、全国市町村教育委員会連合会、日本放送協会(NHK)、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、(公社)全国学校図書館協議会、(公社)日本PTA全国協議会、(公社)米穀安定供給確保支援機構
○協賛	全国農業協同組合連合会、全国共済農業協同組合連合会、農林中央金庫、全国厚生農業協同組合連合会、(株)日本農業新聞、(一社)家の光協会、(一社)全国農協観光協会

### ○応募部門・応募作品数

部 門	作文部門	図画部門	合 計
1部(小学校1年生～3年生)	15,468	33,599	49,067
2部(小学校4年生～6年生)	18,560	24,404	42,964
3部(中学校1年生～3年生)	16,632	2,764	19,396
合計	50,660	60,767	111,427

### 〈みんなのよい食プロジェクトとは〉

J Aグループがすすめる、心と体を支える食の大切さ、国産・地元産農畜産物の豊かさ、それを生み出す農業の価値を伝えることで、国産・地元産農畜産物と日本の農業のファンになっていただくという運動です。

HP (<https://life.ja-group.jp/>)



## 【参考】内閣総理大臣賞 作文部門 広がれ！お米の可能性

香川県 高松市立栗林小学校 6年 長町 そよか

たきたての白いごはんには魚の煮物、そして、野菜のいためものと貝の汁物。このこんだてから多くの人が想像するのは日本のごはんではないだろうか。しかしこれは、私がベトナムで食べたごはんだった。

私は四月の終わりに家族でベトナム旅行に行った。ベトナムの人は、フォーや生春巻ばかり食べているイメージがあったのでおどろいた。もちろんフォーや生春巻も食べていたが、晩ごはんは白いごはん、ごはんがすすむおかずを組み合わせるそう。そして、少し田舎に行くと、見渡す限り田んぼが広がっていて、農家の人が水牛と一緒に稲刈りをしていた。おどろいたのは、家の前から道路にまではみ出して、大量のもみを干していたことだ。ベトナムでは、日本のように脱こくをする前に、はさがけをしないそう。バケツで稲を育てたことのある私には、収かく後の作業のちがいが興味深かった。ベトナムは世界有数の米の輸出で、米作りは二期作や三期作をしていることも現地でも知った。また、日本語で食事のことを「ごはんを食べる」と言うが、ベトナムも同じで「アン（食べる）コム（白いごはん）」と言う。このことから私は、ベトナムが日本と同じく米が主食の国だと知り、すごく身近に感じた。

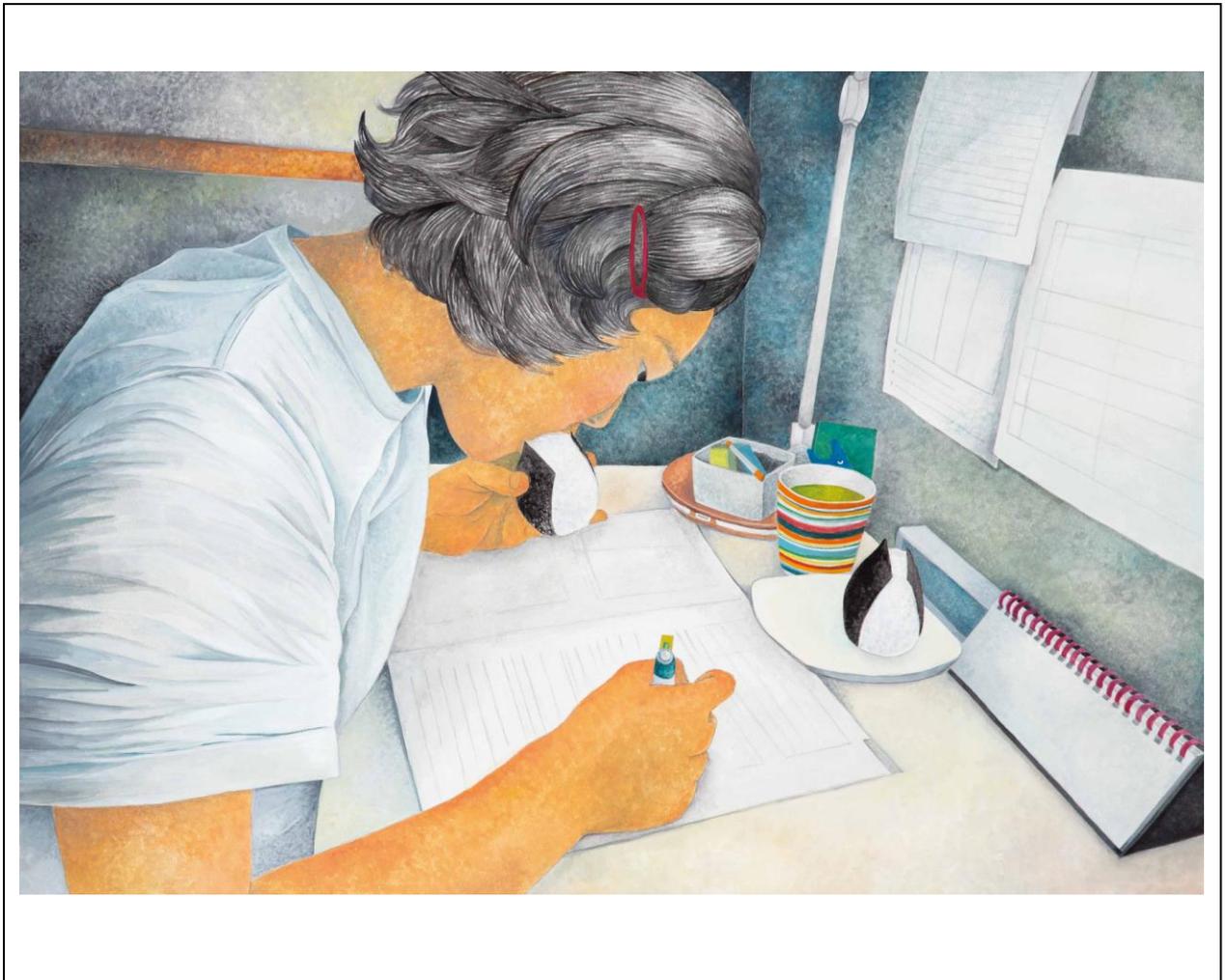
ベトナムでいろいろな米料理を食べて帰ってきた私は、ベトナムの米料理についていろいろ調べてみた。分かったことは、ベトナムでは、米を粉にして加工するものが多いということだ。フォーや生春巻もこうして作られている。それに対して日本は、粒のまま食べている。これは、お米の種類や食文化のちがいがあるからだと思う。日本では年々、米の消費量が減り、米農家や田んぼもどんどん減っている。けれどベトナムでは、めんやライスペーパー、おこわやおかゆなど、日常的にお米をたくさん食べている。私は、ベトナムの米の消費量が日本のように減らないのは、食べ方がたくさんあるからではないかと考えた。今までお米のことを日本国内からしか見ていなかったけれど、初めて世界から見る経験をした。一番感じたのは、お米が持つ力、パワーのすごさだ。お米はどんな形にもどんな料理にも姿を変えることができ、赤ちゃんからお年寄りまで食べることでできる健康食だ。こんな食べ物は他にはないと思う。日本は米作りに適した気候で、昔から米を作って食べてきた文化がある。おいしいお米を作る技術もある。だからこそ私は、もっともっとお米の可能性を広げたいと思った。日本でも米粉パンなど、今までになかった食べ方も増えてきているけれど、もっと、みんなが思いつかないような、おもしろくておいしい米料理を考えてみたい。形や食べ方、他の食材との組み合わせなど、お米には大きな可能性があると思う。私はこのことを、日本だけでなく、世界にも発信していけたらいいなと思う。

※作品のデータが必要な場合、作文・図画コンクール全国事務局(TEL:03-6281-5811、担当：隅内、船津)までお問い合わせください。



【参考】内閣総理大臣賞 図画部門  
おむすびは勉強のおとも

静岡県 長泉町立北中学校 3年 清和 羽音



※作品のデータが必要な場合、作文・図画コンクール全国事務局(TEL:03-6281-5811、担当：隅内、船津)までお問い合わせください。



「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 表彰式 ご取材申込書

わたし」作文・図画コンクール広報事務局 行

**FAX:03-3457-7515**

令和2年1月9日(木)までにFAXにてご返信をお願い申し上げます。

◎貴社名： \_\_\_\_\_

◎媒体名／番組名： \_\_\_\_\_

◎部署名： \_\_\_\_\_ ◎お名前： \_\_\_\_\_

◎参加人数： \_\_\_\_\_ 名 ◎掲載・放送予定日： \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

◎TEL： \_\_\_\_\_ ◎FAX： \_\_\_\_\_

◎撮影について： あり (ビデオ ・ スチール) なし

■会場

東京・大手町 大手町カンファレンスセンター  
301会議室 (JAビル3階)

東京都千代田区大手町1-3-1

<電車>

東京メトロ大手町駅 (千代田線等)

C2b出口より直結

■スケジュール

令和2年1月11日 (土)

13:30 取材受付

14:00 開会挨拶

(JA全中 副会長理事 須藤正敏)

14:10 表彰式

15:00 閉会

■出席者 (予定)

主催者 副会長理事 須藤正敏、常務理事 石堂真弘

来賓 各省庁代表者、後援・協賛団体代表者

受賞者 内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、  
農林水産大臣賞、全国農業協同組合中央会会長賞の各受賞者



この件に関するお問い合わせ先

※作品内容の照会、データについて

作文・図画コンクール全国事務局 担当：隅内、船津 <sup>すみうち</sup>

TEL：03-6281-5811 FAX：03-6281-5853 携帯：080-5943-5896 e-mail：[sakuzuga@agrnews.co.jp](mailto:sakuzuga@agrnews.co.jp)

※取材対応について

作文・図画コンクール広報事務局 (株)メディコ 内) 担当：松本

直通 (携帯)：090-6111-9766 TEL：03-3457-7571 e-mail：[matsumoto@medico-pr.co.jp](mailto:matsumoto@medico-pr.co.jp)

※主催団体について

全国農業協同組合中央会 広報部広報課 担当：林

TEL：03-6665-6011 FAX：03-3217-5072 e-mail：[t-kouho.s@zenchu-ja.or.jp](mailto:t-kouho.s@zenchu-ja.or.jp)

